

カンガバシシて用
827

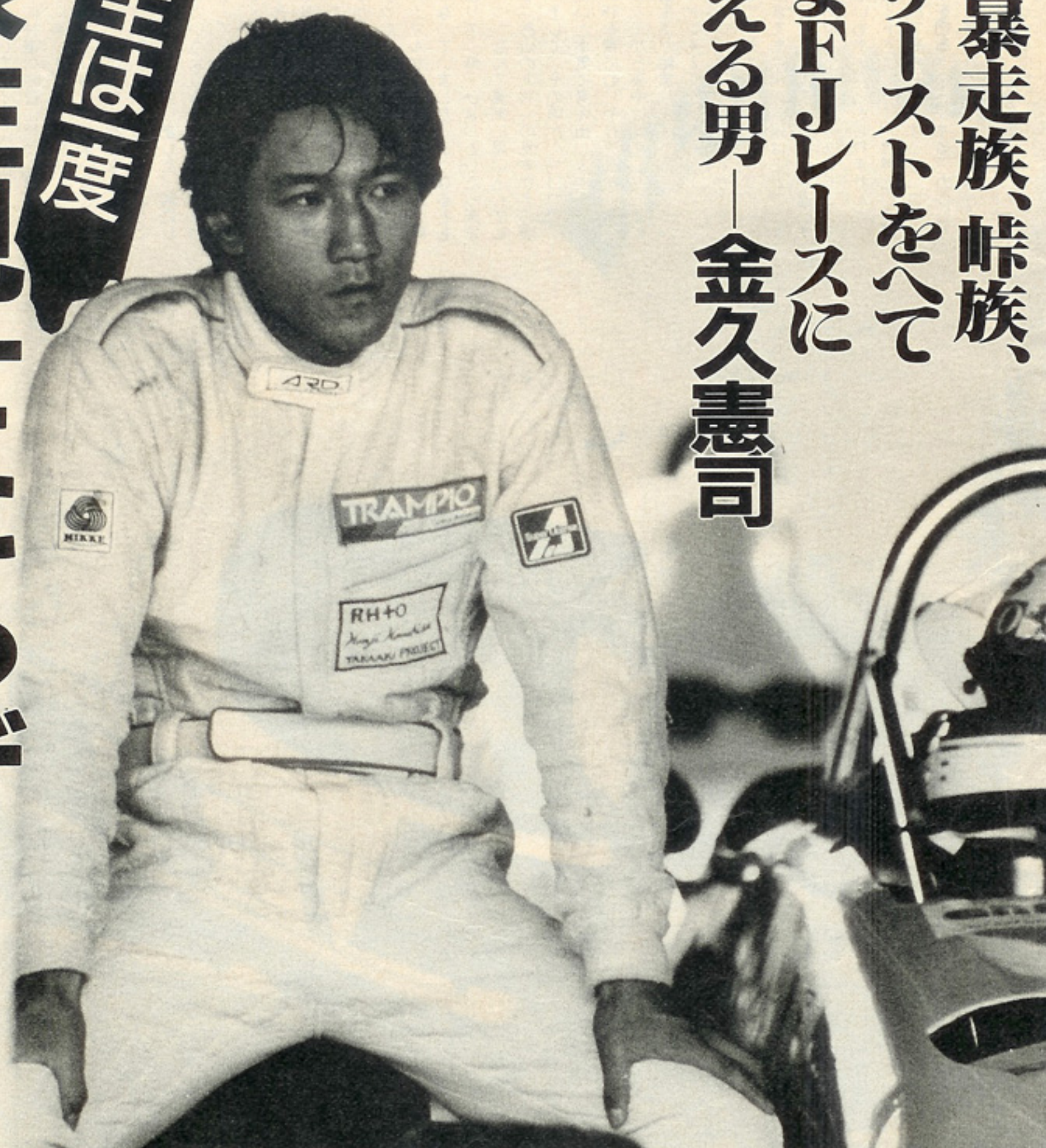
昔、暴走族、峠族、
ラリーーストをへて

いまFJレースに

燃える男—金久憲司

人生は一度

根性見せたいぞ！



昼はセールスマン
夜はトラック運転
手で資金稼ぎ!!

もともと、僕は幼い頃から乗り物と競争が好きで、幼稚園の頃は友たちと3輪車で坂を下る競争、小学校に上がると自転車競争、バイクに乗るようになる。頻りに峠に出かけ、そこでもまた競争、思えばそんなことはかりしてました。小さい頃から負けず嫌いで、人に負けると意地になるという変な癖があったような気がします。そんな僕ですから、4輪の免許を取ったら即、峠へ行って腕を磨き、レーサーを目指し日夜練習に励んだ……と書きたいところですが、実際はそうではありませんでした。最初こそチェリー、ギャランと乗り継ぎ、峠へもよく行ったのですが、次に乗ったのがブルーバードのシヤコタン。この頃から走り屋本来の道から少し変な方向にはずれてしまったのです。

その頃の僕は「クルマはとにかく人より車高が低く太いタイヤ、そして何より直線が速かったらいい」と真剣にそう思っていました。走るコースも峠ではなく阪神高速環状線、それでも仲間内では、自分が一番運転がうまいと真剣に思っていたからどうしようもありません。そんなある日、知人にラリーをしている人がいて雪道で助手席に乗せてもらう機会がありました。そしてその瞬間、僕の自信は音を立ててくずれ去り、あまりのシヨックにしばらく黙り込んでしまったのを覚えています。ハッキリいってびっくりしました。しかし、その事件以来、僕はモータースポーツに興味をもつようになったのです。

そんなある日、「ちょっと乗ってみたら」というありがたいお言葉。「その言葉を守ってました」とばかりに乗ったまてはよかったです。最初はなかなか思うように乗れない。